

市立小学校の給食で 異物混入事故発生

問題は組織体制と 職員の意識づくり不備か

4月22日、市内の小学校で給食に異物が混入したにもかかわらずそのまま給食を継続したという事故が発生しました。市教委の報告によると、「給食の配膳時に黒板横に立てかけてあった蛍光灯が床に倒れ、蛍光灯が破損した。破損した蛍光灯の破片が児童の頭や足に当たったり、破片の一部が給食に混入し、児童が口にしたりした」というものです。

市教委は3月28日に異物混入が認められた際には給食を直ちに中止するよう指示したとのことですが、そのことが現場に徹底されていなかったこととなります。また、蛍光灯の取り替えを不慣れな職員が行うような体制であったことも、事故発生の原因の一つです。

市内では近年、毎年のように給食に関する事故が発生しています。給食は食を通して子どもたちの成長を保障する大事な教育活動の一環であると共に、子どもたちにとっては学校生活における楽しみの時間でもあります。その給食の安全は何よりも優先しなくてはなりません。その体制づくりを何にも増して重要視することが求められます。

日本共産党上越市議員団ニュース
No.870 2025年5月11日

連 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
絡 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
先 平良木哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))
ホームページ <https://jcpjoetsugiindan.webnode.jp/>

「正規雇用増やせ！ 最低賃金上げる！」 の声響かせて

第96回 メーデー上越集会

日本では労働運動が始まったのは、明治時代以降。労働者は生きるために労働組合を作り、弾圧にも負けず闘いました。

後、シカゴの労働者は再び立ち上がり、世界中の労働者に呼びかけ、5月1日を国際的な連帯、共同の日にすることを呼びかけました。こうして一つの旗の下、労働者の国際的共同行動が始まりました。



来賓あいさつでは、日本共産党を代表して橋爪議員が、コウノトリが三和区でも営巣して産卵・抱卵したことを伝えるながら、

今年の上越での集会は、午後2時から雁木通りプラザで行われました。

来賓あいさつでは、日本共産党を代表して橋爪議員が、コウノトリが三和区でも営巣して産卵・抱卵したことを伝えるながら、



その後、参加した各団体からの活動報告と決意表明が行われた後、メーデー宣言を採択して集会を終了し、本町や上越大通りを練り歩くデモ行進を行いました。

デモ行進では、連休に囲まれた平日で、中学生や高校生の下校時間と重なったこともあって、若者たちがたくさんの方の応援の声をかけていました。

5月1日は労働者の日、メーデーです。

メーデーは、1886年、アメリカのシカゴで、工場労働者が過酷な労働に対して「8時間労働制」を要求してストライキを行ったのが起源です。その3年後、シカゴの労働者は再び立ち上がり、世界中の労働者に呼びかけ、5月1日を国際的な連帯、共同の日にすることを呼びかけました。こうして一つの旗の下、労働者の国際的共同行動が始まりました。



08年のリーマンショックを経た翌年の「雇用メーデー」、2013年の東日本大震災後に「被災地支援・復興」を打ち出して「雇用と生活の確保」を大きくアピールしたメーデーなどを経て、今年のメーデーに至ります。

そうした中、日本で初めてのメーデーが東京の上野公園で行われました。最初に掲げられたスローガンは、「失業の防止」「治安警察法反対」「最低賃金法の制定」でした。

その後、戦後初の「食糧メーデー」(1946年)、1952年の「血のメーデー」、1989年の労働戦線の再編の中で闘うメーデーの継承、2008年のリーマンショックを経た翌年の「雇用メーデー」、2013年の東日本大震災後に「被災地支援・復興」を打ち出して「雇用と生活の確保」を大きくアピールしたメーデーなどを経て、今年のメーデーに至ります。

熱を込めて次の連帯のあいさつを行いました。

「原発再稼働の県民投票条例は否決されましたが、その制定に向けての運動は、今後の運動に大きな力になります。また、コメ不足は一年では終わらないことから、日本の食料は日本の大地から」を重視し、生産者と消費者を支援する農政へ今こそ転換することが重要です。ともに頑張りましょう」

続いてプラカード披露が行われ、各団体が工夫を凝らしたプラカードを紹介しました。(このプラカードはその後のパレードで市民の目に訴える大きな役割を果たしました)